様式第１号

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	平成 28 年度
１次評価日（主幹等）	29 年 3 月 31 日
２次評価日（課長等）	29 年 3 月 31 日

1 事業名	美術考古館展示事業（企画展）	コード	111115

2 担当部課	部等	教育部	課等	生涯学習課（岡谷美術考古館）	作成者	戸谷田剛秀

3 事業概要				
目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち		
	政　策	文化・スポーツの振興	施　策	文化・芸術の振興
	予算科目	企画展等開催事業	業務委託	なし（直営）
	実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
	根拠法令	博物館法第３条１		

●事業の内容（DO）

4 事業の概要等

＊対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）

事業の概要（簡潔に）		魅力ある展覧会の開催により、質の高い芸術文化に触れる機会を増やし、芸術文化を提供する。
目的	対象者	市民及び来館者
	意　図	市民の芸術文化の振興　生涯学習の推進

5 事業の実施内容

＊28年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容

市制施行８０周年・開館３周年を記念して特別企画展を開催した。
○「姉妹都市アーティスト展　伊東美和（岡谷）・内尾和正（玉野）」　７月１６日～９月１１日
関連イベントの開催
・チョークアートに挑戦してみよう（伊東美和）　7月30日 19人
・チョークアートに挑戦してみよう（伊東美和）　8月11日 20人
・「夢のいきもの大募集」表彰式　（内尾和正）　8月28日 94人
・アーティスト・トーク　（内尾和正）　8月28日 20人
○「根岸芳郎展（1970-2016 その旅立ちと現在）」　９月１７日～１１月６日
関連イベントの開催
・アーティスト・トーク 9月17日 29人　・ミュージアム・コンサート　懐かしの映画音楽 9月30日 55人
・アーティスト・トーク 10月2日 14人　・木下長宏（美術評論家）・根岸芳郎対談 10月9日 25人
・ミュージアム・コンサート　ジャズ・ライブ 10月16日 33人　・アーティスト・トーク 11月3日 60人
・ミュージアム・コンサート　ジャズ・ライブ 11月3日 84人
○「姉妹都市アーティスト展　大竹夏紀（富岡）」　２月７日～３月２６日
関連イベントの開催
・アーティスト・トーク 3月4日 35人　・ろうけつ染めを体験しよう 3月4日 9人
○「姉妹都市関連展示　雛のつるし飾り（東伊豆）」　２月１８日～３月２５日
○「第２４回岡谷市内小学校児童版画展」２月１１日～３月１２日
関連イベント
・児童版画展表彰式 3月12日 79人

前年度の課題への対応	市制施行８０周年及び開館３周年特別企画展や関連イベントなど、作家の個性ある魅力と興味のある展示を多くの来館につながるよう内容の充実に努めた。

6 指標の達成状況

＊活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度

区　分	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
① 活動指標（指標名）	展示・企画展の開催日数			単位 日
実績値	303	299	294	
＊指標の説明	岡谷美術考古館の開館日数			
② 成果指標（指標名）	１日あたりの入館者数			単位 人
目標値	40	40	42	35
実績値	34	35	35	
達成度	85.0%	87.5%	83.3%	
＊指標の説明	岡谷美術考古館の１日あたりの入館者数			
＊目標値の設定方法の説明	過去３年間における１日あたりの入館者数の平均値			

7 ア）コストの推移

＊この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）　［単位：円］

補助金負担金名	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
① 直接事業費	1,260,389	1,876,109	1,298,743	890,000
経常経費				
臨時的経費	1,260,389	1,876,109	1,298,743	890,000
＊臨時的経費の説明				

補助金負担金名	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
② 人件費	2,400,000	2,400,000	2,400,000	2,400,000
正規職員の人数（人）	0.30	0.30	0.30	0.30
③ 合計コスト（①＋②）	3,660,389	4,276,109	3,698,743	3,290,000
前年度比		116.8%	86.5%	88.9%
財源内訳 一般財源	3,660,389	4,276,109	3,698,743	3,290,000
財源内訳 特定財源				
＊特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	7,921	8,027	8,163	
前年度比		101.3%	101.7%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ）補助金負担金の状況

［単位：件、円、%］

補助金負担金名		26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア）の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

＊行が足りない場合は追加してください

●事業の評価（CHECK）

8 妥当性評価

＊妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。　**妥当性　高い**

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、ＮＰＯ、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

＊有効性＝成果指標（項目7／住民の満足度）は向上しているか。　**有効性　標準**

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。　成果指標の実績値　前年度比　100.0%	1	
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。　成果指標の目標値　達成度　83.3%		0

●改善の内容（ACTION）

10 具体的な課題と改善

課題	（少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること） より魅力があり多くの集客に繋がるような特別企画展などの内容やテーマの設定が難しい。
改善方法	（上記の課題をふまえて29年度以降に実施する、具体的な改善の内容） 市外美術館等の展示企画なども参考にして、魅力ある企画展の開催を行う。 収蔵作品や収蔵作家について、より見識を深め新たな発見に努めながら、新しく魅力あるテーマ設定を行っていく。 交流ひろばや交流ステーションも有効利用しながら相乗効果を図っていく。 美術関係者、団体等からのアドバイスなども参考や視野に入れながら企画やテーマ設定を行っていく
改善開始時期	平成29年4月

●次年度の計画（PLAN）

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による29年度の優先度 *H27年度施策評価表より転記すること	B